

生活を支える地域づくり

～総合事業と災害～

岡山県総社市役所
保健福祉部長寿介護課 野瀬 明子

岡山県総社市の概要

人口 68,700人 (H30.5月末現在)

※ 暮らしやすいため、どんどん増加中です！

総面積：211.9km²

年平均気温：16.5℃前後、

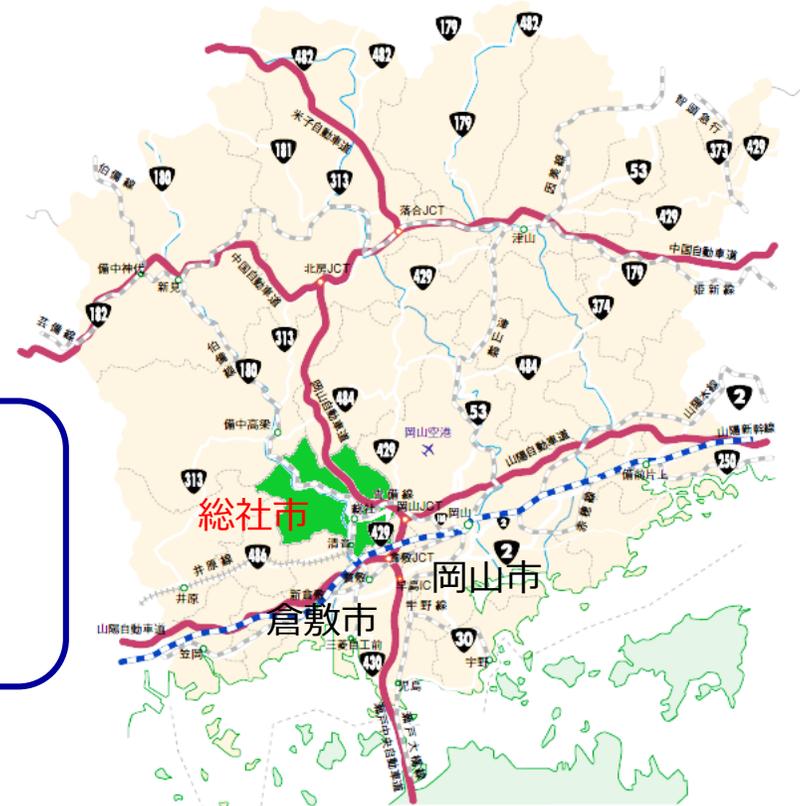
雨量：年間1,000mm前後の

瀬戸内海特有の温暖、少雨の恵まれた気候です。

災害も少なく、岡山県南の自然豊かな都市です。



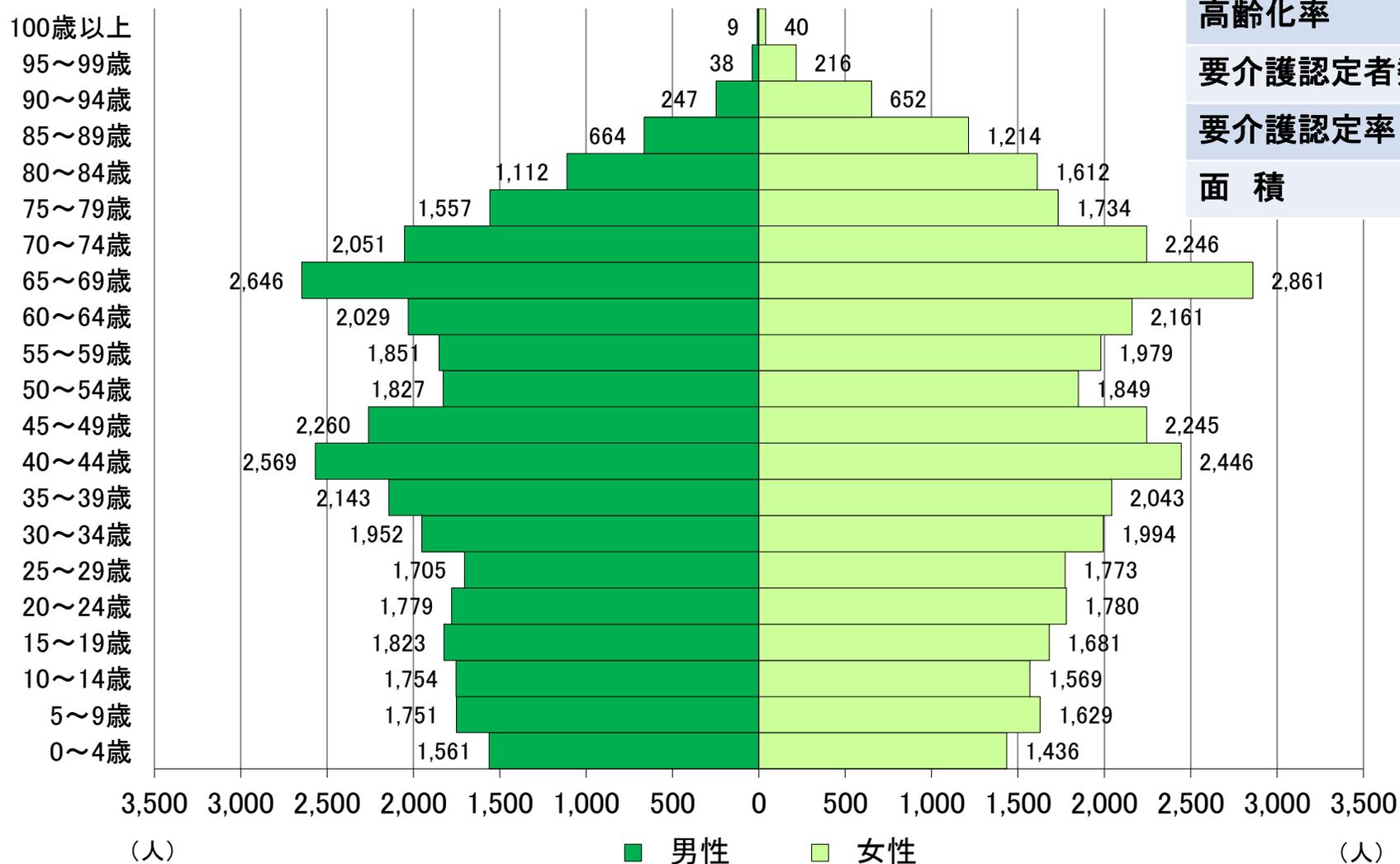
68,969人
(H30.8末現在)



総社市は、かつての古代吉備の国の中心として栄えた地域であり、縄文以前から人々が生活していた形跡が見られます。古墳時代には吉備の中心地として栄えたことをうかがわせる数多くの古墳が残されています。

飛鳥・奈良時代には、備中の国府も置かれ、国分寺、国分尼寺も配置され、備中の国の政治・経済・文化の中心地として栄えました。平安時代末期には備中国中の324社の神々を1つに合祀した総社宮が建てられました。総社市の名称はこれに由来しています。

人口ピラミッド(平成29年)



	総社市H29.8末 現在	総社市H30.8末現在
人口	68,448人	68,969人
高齢者人口	18,848人	19,117人
高齢化率	27.5%	27.7%
要介護認定者数	3,465人	3,538人
要介護認定率	18.4%	18.5%
面積	211.9km ²	

資料:住民基本台帳人口 9月末現在

各地域包括支援センター管内 H30.8末現在

■中央部北(総社, 池田)

◎人口 23,118人 **増**
高齢者人口 6,001人
高齢化率 **26%**
◎認定者数1,059人(**要支援356人**)
◎認定率 17.6%
事業対象者 9人

■東部北(服部, 阿曾)

◎人口 5,100人
高齢者人口 1,597人
高齢化率 **31.3%**

◎認定者数336人(**要支援105人**)
◎認定率 21% **↓**
事業対象者 7人

■東部南(三須, 山手)

◎人口 8,107人 **増**
高齢者人口 2,380人
高齢化率 **29.4%**

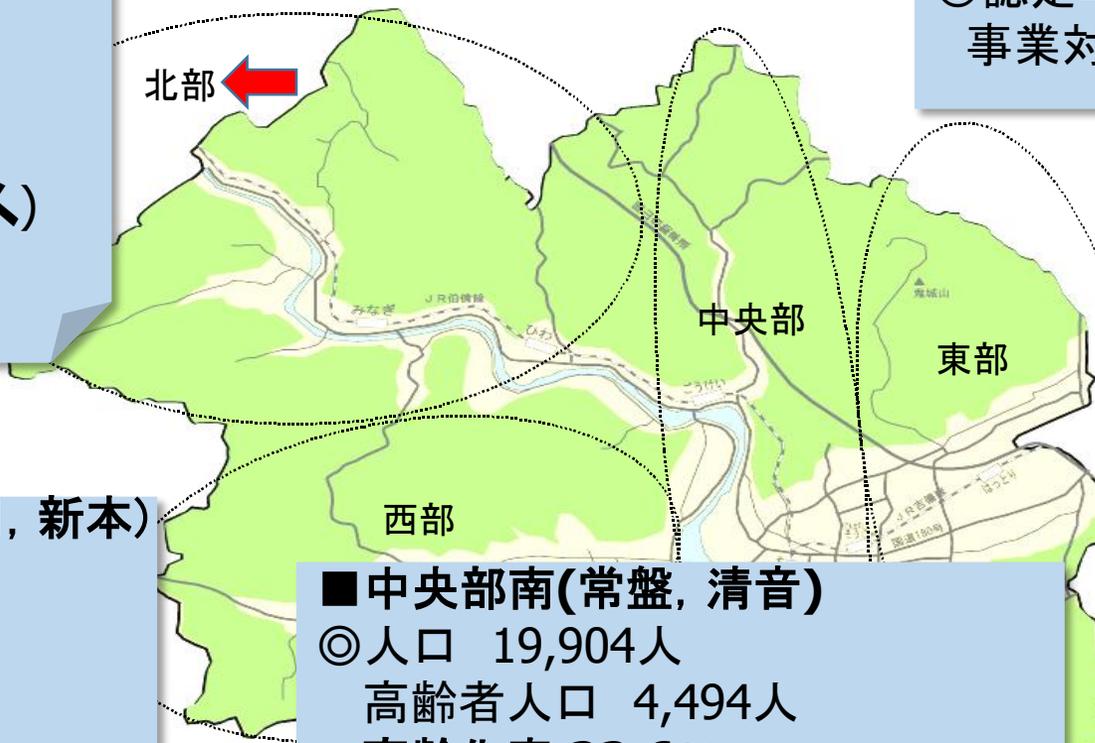
◎認定者数423人(**要支援137人**)
◎認定率 17.8%
事業対象者 4人

■中央部南(常盤, 清音)

◎人口 19,904人
高齢者人口 4,494人
高齢化率 **22.6%**

◎認定者数754人(**要支援253人**)
◎認定率 16.8%
事業対象者 6人

北部 ←



■北部(日美, 下倉, 水内, 富山)

◎人口 3,136人 **↓**
高齢者人口 1,464人
高齢化率 **46.7%** **↑**

◎認定者数360人(**要支援135人**)
◎認定率 24.6%
事業対象者 0人

■西部(秦, 神在, 久代, 山田, 新本)

◎人口 9,604人
高齢者人口 3,181人
高齢化率 **33.1%** **↑↑**

◎認定者数606人(**要支援193人**)
◎認定率 19.1%
事業対象者 2人

総杜市の総合事業

1 訪問型サービス(第1号訪問事業)

(1)旧介護予防訪問サービス(現行相当サービス)

(2)住民主体訪問サービス(訪問型サービスB)

身体介護を必要としない者等に対する、生活支援サポーター(ボランティア等の支援の担い手に対する研修を修了した者)による訪問介護サービス

2 通所型サービス(第1号通所事業)(H30.9.1現在)

(1)旧介護予防通所サービス(現行相当サービス)⇒29事業所

(2)基準緩和通所サービス(通所型サービスA)⇒16事業所

従来の介護予防通所介護の指定基準等を緩和したサービス

(3)短期集中通所サービス(通所型サービスC)⇒2事業所

生活機能を改善する支援が必要な者等に対する、専門職による短期集中予防サービス

総社市の開催する地域ケア個別会議

地域ケア個別会議で必要に応じ、本人の能力に応じたサービス利用を検討。

要支援者・事業対象者



地域ケア個別会議

サービス担当者会議



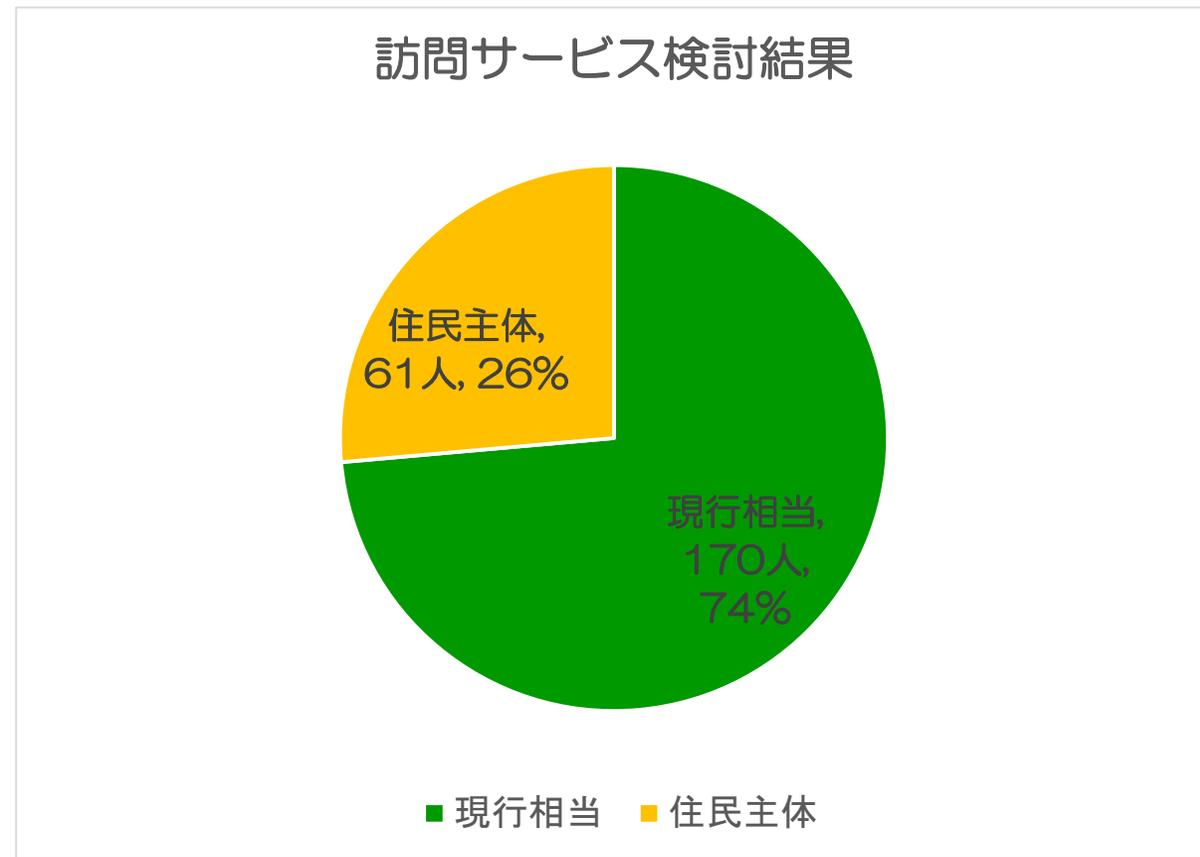
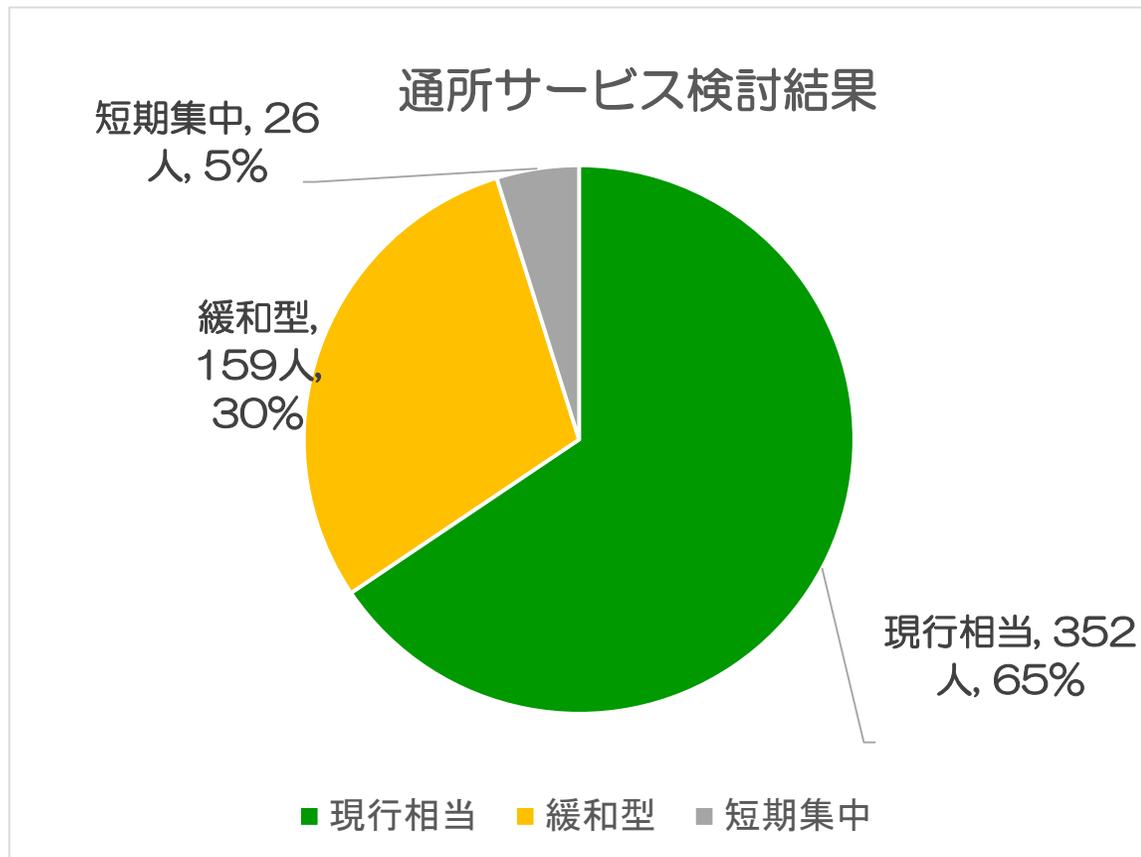
デイサービス継続

通所サービスA型

地域のサロン等

総社市では、介護予防に資する、地域ケア個別会議を地域支援の軸にとらえ、「ニーズ特定・目標設定・ケア方針・本人・家族の希望」を検討し、ケアプランに反映する方針。

H29地域ケア個別会議・・・検討結果





にこにこサポート事業【サポート内容編】

(1) 掃除



- 部屋の掃除
- お風呂の掃除
- トイレの掃除
- ゴミの分別
- ゴミ出し など

(3) 買い物



- 買い物の代行
(依頼により買い物を代行する)
- 買い物の同行
(一緒に買い物に同行する)



高齢者の
豊かな自立した生
活をお手伝いする
応援団



(5) その他

- 介護予防・自立生活を支えるために必要とされるサポートの内容
→ にこにこサポーターで対応できること(要相談)

(2) 簡単な家事



- 洗濯
- 洗濯
- 布団干し
- 電球交換
- 季節衣類等の出し入れ
- 調理の補助
(食事準備・片づけ・食材カット など)
- ★ 本人と一緒にやる

(4) 外出時の付き添い



- 地域の集いの場
- 近隣の病院、銀行 など
- ★ サポーターが運転する車には同乗しない
- ★ 公共交通機関等での移動
(費用は利用者負担)

H27実績 45人
H28 " 82人 サポーター登録内 92人



H29実績

生活支援サポーター養成講座：圏域毎に開催

- 修了者：51人
(中央部11人・東部13人・西部4人・北部23人)
- 登録者：28人
(中央部 8人・東部 5人・西部3人・北部12人)

サポーター登録者(合計) 120人

サービス利用者(計) 44人/サポーター数延べ87人(実59人)

要支援1：17人，要支援2：14人，事業対象者13人

医療介護連携推進事業の活用

総社市医療介護ミニ講座

『お薬について』・『認知症』・『ルディックウォーキング』・『栄養』。様々なテーマで「総社市 医療介護ミニ講座」を開催します。健康にいきいきと充実した毎日を送っていただくために、お誘いあわせのうえ、是非ご参加ください。

【内容】

+

日時	場所	講話内容
10月2日(火) 13:30~15:00	総社市保健センター2階 保健指導室・集団指導室	「お薬についての大切なお話」 講師：岡山県薬剤師会吉備支部
10月11日(木) 13:30~15:00	総社市保健センター2階 保健指導室・集団指導室	「認知症について伝えたいこと」 講師：グループホーム総社中央 松浦 昭雄氏
10月16日(火) 13:30~15:00	総社市保健センター2階 保健指導室・集団指導室	「ルディックウォーキングのすすめ」 講師：岡山山歩の会館 新田 瑞季 氏
11月1日(木) 13:30~15:00	総社市保健センター2階 保健指導室・集団指導室 栄養指導室	「料理の苦手な男性向け！ ちょっとの工夫で豊かな食に」 講師：長寿介護課職員



【対象】 総社市在住の人、高齢者に関わる仕事に従事している人等

【定員】 各70名

【参加費】 10/16はルディックウォーク-ルソ外代 500円が必要です。

【申込方法】 電話またはFAXでお申込みください。

(詳しくは裏面をご覧ください)

【主催】 総社市

【参加申込書】

住所	〒		電話番号		
ふりがな	※参加希望日を〇で囲んでください。				
氏名	10/2	10/11	10/16	11/1	
	お薬	認知症	ルディックウォーキング	栄養	

住所	〒		電話番号		
ふりがな	※参加希望日を〇を記入してください。				
氏名	10/2	10/11	10/16	11/1	
	お薬	認知症	ルディックウォーキング	栄養	

住所	〒		電話番号		
ふりがな	※参加希望日を〇で囲んでください。				
氏名	10/2	10/11	10/16	11/1	
	お薬	認知症	ルディックウォーキング	栄養	

※電話またはFAXでお申込み下さい。

※申し込みは、定員(各70人)に達した段階で締め切りとします。参加決定の通知はしませんが、定員に達した場合のみご連絡いたします。



【申し込み・問い合わせ先】

〒719-1192

岡山県総社市中央一丁目1番1号

総社市長寿介護課地域ケア推進係

電話：0866-92-8373

FAX：0866-92-8385

地域支援事業の構成

介護予防・日常生活支援総合事業

- 介護予防・生活支援サービス事業(要支援者, 基本チェックリスト該当者が対象)
 - ・訪問型サービス
 - ・通所型サービス
 - ・生活支援サービス(配食・安否確認等)
 - ・介護予防支援事業(ケアマネジメント)
- 一般介護予防事業(すべての高齢者が対象)
 - ・住民運営の通いの場が充実
 - ・地域リハビリテーション活動支援事業……地域リハビリテーション活動の促進

包括的支援事業

- 地域包括支援センターの運営・機能強化(地域ケア会議の充実)
- 在宅医療・介護連携の推進
- 認知症施策の推進(認知症初期集中支援チーム, 認知症地域支援推進員の配置)
- 生活支援サービスの体制整備(コーディネーターの配置, 協議体の設置等)

任意事業

- 介護給付適正化事業
- 家族介護支援事業
- その他の事業(成年後見制度利用支援, 住宅改修支援等)

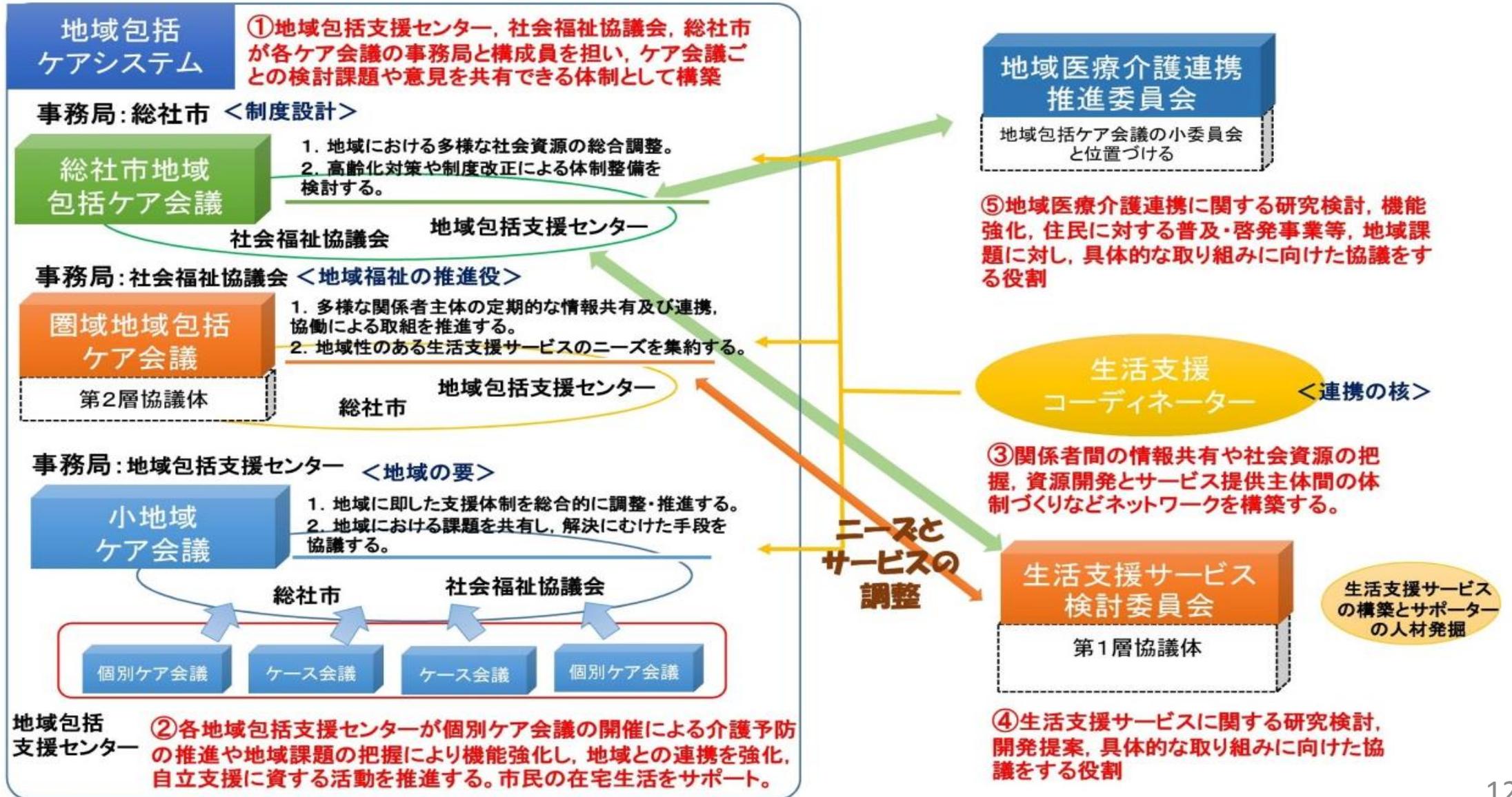
地域支援事業を横断的に見してみる (在宅医療・介護連携推進事業セミナー事前課題より)

【基本理念】 住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまち

- 【基本目標】
- 1 住み慣れた地域でいきいきと暮らせるまちづくり
 - 2 いつまでも安心して暮らせるまちづくり
 - 3 効果的な介護サービス等が安定して受けられるまちづくり

	在宅医療・介護連携 推進事業	認知症施策	総合事業 生活支援体制整備事業	地域ケア会議	その他
情報収集 課題抽出 対応策の検討	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療介護連携推進委員会の設置 ・多職種情報交換会の活用 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症初期集中検討委員会 	<ul style="list-style-type: none"> ・第1層協議体 ・第2層協議体 ・各課題検討部会 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議 ・小地域ケア会議 ・圏域ケア会議 ・地域包括ケア会議 	<ul style="list-style-type: none"> ・総社市高齢者福祉計画・第7期介護保険事業計画
連携体制 情報共有	<ul style="list-style-type: none"> ・入退院ルール ・ICT晴れやかネット/ケアキャビネットきびきび 	<ul style="list-style-type: none"> ・初期集中支援チームの配置 ・SOSシステム申請時の相談対応 	<ul style="list-style-type: none"> ・2層の生活支援コーディネーターが圏域ケア会議を開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・自立支援・介護予防の観点からの地域ケア個別会議 	
コーディネーター 配置	<ul style="list-style-type: none"> ・長寿介護課に医療介護連携窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症地域支援推進員 	<ul style="list-style-type: none"> ・生活支援コーディネーターの配置 	<ul style="list-style-type: none"> ・総社市職員 ・地域包括支援センター職員 ・社会福祉協議会職員 	
人材育成	<ul style="list-style-type: none"> ・多職種連携研修 ・介護関係職種への医療に関する研修 	<ul style="list-style-type: none"> ・認知症サポーター養成講座 ・認知症ボランティア講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・介護予防・生活支援サポーター養成講座の開催 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域ケア個別会議によるOJT ・緩和型サービス事業所情報共有会議 	
住民啓発	<ul style="list-style-type: none"> ・医療介護ミニ講座 ・インフォメーションを活用した出前講座 	<ul style="list-style-type: none"> ・地域医療介護連携講演会 	<ul style="list-style-type: none"> ・いきいき百歳体操リーダー研修会 	<ul style="list-style-type: none"> ・小地域ケア会議での周知 	

住民とともに課題を考えるしくみ



総社市における生活課題について



【北部圏域】

- ・ 少子高齢化への不安
→ 担い手（後継者）不足
- ・ 高齢者の移動
→ 通院、買い物など
- ・ 高齢化による生活支援への不安
- ・ 地域資源の不足
→ 商店、医療機関など
- ・ 空き家の増加

【西部圏域】

- ・ 高齢者の移動（通院や買い物など）
- ・ 空き家の増加（空き家の活用）
- ・ 公会堂や集会所などの老朽化
- ・ 高齢化が進むことへの不安
→ 担い手（後継者）不足

【中央部南圏域】

- ・ 商店等の地域資源が少ない。
→ 高齢者の買い物難民が増加
- ・ 高齢者の移動（通院や買い物など）
- ・ 生活支援サービスの充実

【全域】

- ① 移動
- ② 購買（買い物）
- ③ 後継者
- ④ 空き家
- ⑤ 看護（見守り）
- ⑥ 集会場所（居場所）

【中央部北圏域】

- ・ 高齢者の移動手段について
→ 通院や買い物、集いの場
雪舟くんの利便性
- ・ 公会堂などの老朽化
- ・ 担い手（後継者）不足
- ・ 空き家の増加（有効利用）

【東部圏域】

- ・ 高齢者の移動
→ 通院や買い物など
- ・ 買い物への不安
→ 近くに商店等が少ない
- ・ 高齢者の集いの場の不足
- ・ 高齢者の生活支援

総社市のめざす地域包括ケアシステムとは 住み慣れた地域で安心していきいきと暮らせるまち

医療機関を受診・入院

- ・かかりつけ医
- ・かかりつけ歯科医
- ・かかりつけ薬局

地域医療介護連携
推進委員会

在宅医療・看護
通院・入院・退院

訪問・
通所サービス

入所・退所
短期入所

介護保険サービスの利用

■在宅系サービス:

- ・訪問介護・訪問看護・通所介護
- ・小規模多機能型居宅介護
- ・短期入所生活介護
- ・24時間対応の訪問サービス
- ・複合型サービス
(小規模多機能型居宅介護+訪問看護)等

■施設・居住系サービス

- ・介護老人福祉施設
- ・介護老人保健施設
- ・認知症共同生活介護
- ・特定施設入所者生活介護 等

ケアマネジャー

総社市地域包括支援センター

住まい

- ・自宅
- ・サービス付き高齢者向け住宅等

地域交流・社会参加

いきいき百歳体操・

ふれあいサロン・歩得ポイント・生涯現役

生活支援・介護予防

民生委員・福祉委員・愛育委員・栄養委員・地区社会福祉協議会
認知症サポーター・生活支援サポーター・介護予防サポーター
老人クラブ・自治会・ボランティア・NPO 等

SOS
システム

認知症施策

- 認知症サポート医
- 認知症初期集中支援チーム
- 認知症地域支援推進員

認知症
カフェ

みんなで見守る
ネットワーク

生活支援サービスの体制整備

生活支援サービス検討
委員会

生活支援コーディネーター

総社市長寿介護課

総社市社会福祉協議会

地域包括ケア会議

圏域地域包括ケア会議

小地域ケア会議

地域ケア個別会議

西日本豪雨災害H30.7.6



災害後しばらくしてから課題

気軽に買い物をしていた商店が被災



シルバーカーを押して高齢者がお惣菜を買いに行っていた。
焼魚・煮魚

手作りの弁当を楽しみにしている人も沢山いた。



昭和地区の食が傾く



商店に復活して欲しいが、すぐには無理



被災した住宅の多くは1階に台所があり、まだ調理が出来ない。



現状

買い物に
行く手段が減った

情報が入りにくい
(スマホ等の普及のため)

被災者への対応
(被害が大きい方)
の被害感

サロン、100歳体操
ができていない
→ 体制低下、信頼が低い

緊急時に
誰が誰に頼むか
が決められていない

委員の担当決め
役割分担
が必要

要支援認定の方の
生活
新しく認定を受けた方
増 (生活の変化が)

避難の
手段が乏しい

特に一人暮らし
(避難所へ) 声かけ
他の支援は?

これまでの買物の
生協とくら
家族が買っている

これから
必要なこと

生活課題

生活課題①

料理は作れる、
移動手段
がない

生活課題②

台所の被害
家で調理できない
→ 弁当がほしい

生活課題③

食生活の
バランス
弁当屋の変更
→ 選択が

調理器具の
不足...

対象への周知
企業の得意分野
一目で分かる一覧表

宅配の情報

一覧等が欲しい

それぞれが
ライフスタイルに
合わせて選択

生活課題④

買い物の
難しい
お菓子や
お肉の
お惣菜
が売っていない

避難所の食卓
に食糧が
足りない
野菜不足

特に昼食ごはん
レポートが
欲しい

昭和地区における買い物支援に関する検討部会 H30.9.7



- 今後の生活支援体制について
買い物支援・食の確保
- 地域の困り事など情報を共有
- サービス拡充を検討している企業があれば情報共有を図る
- 事業者については、地域の声を踏まえて、昭和地区における生活支援についてご検討いただく

サロン・百歳体操が出来ない

緊急時の声かけ体制

情報の入りにくさ

台所が壊れ
家で調理が出来ない

弁当が欲しい

宅配の情報が
欲しい

水内地区における配食弁当試食会 H30.9.19



事業者

すでに前回の意見を
反映させ野菜を増や
しました

お弁当のボリューム
を見て欲しい

移動販売でカフェ・
居場所にも

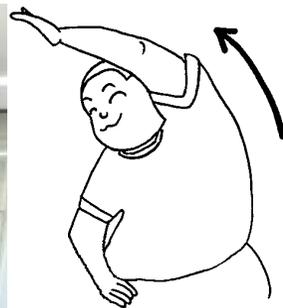
出来るだけお客様の
ニーズに合わせてたい

住民

お弁当ばかりではあ
きるかも

どのくらいの頻度で
来てくれるかな

避難所でもいきいき百歳体操始めています



**1回あたり39分、錘をつけて行う筋力体操。
週1回から週2回、継続して行う。
準備体操、筋力運動、整理体操からなる。**

避難所の人々の運動不足を解消
避難所以外からも参加
もとの生活を取り戻す
「家の片づけでクタクタ、錘はつけなくても良いわ」

鎌田 實先生 講演会 H30.9.23

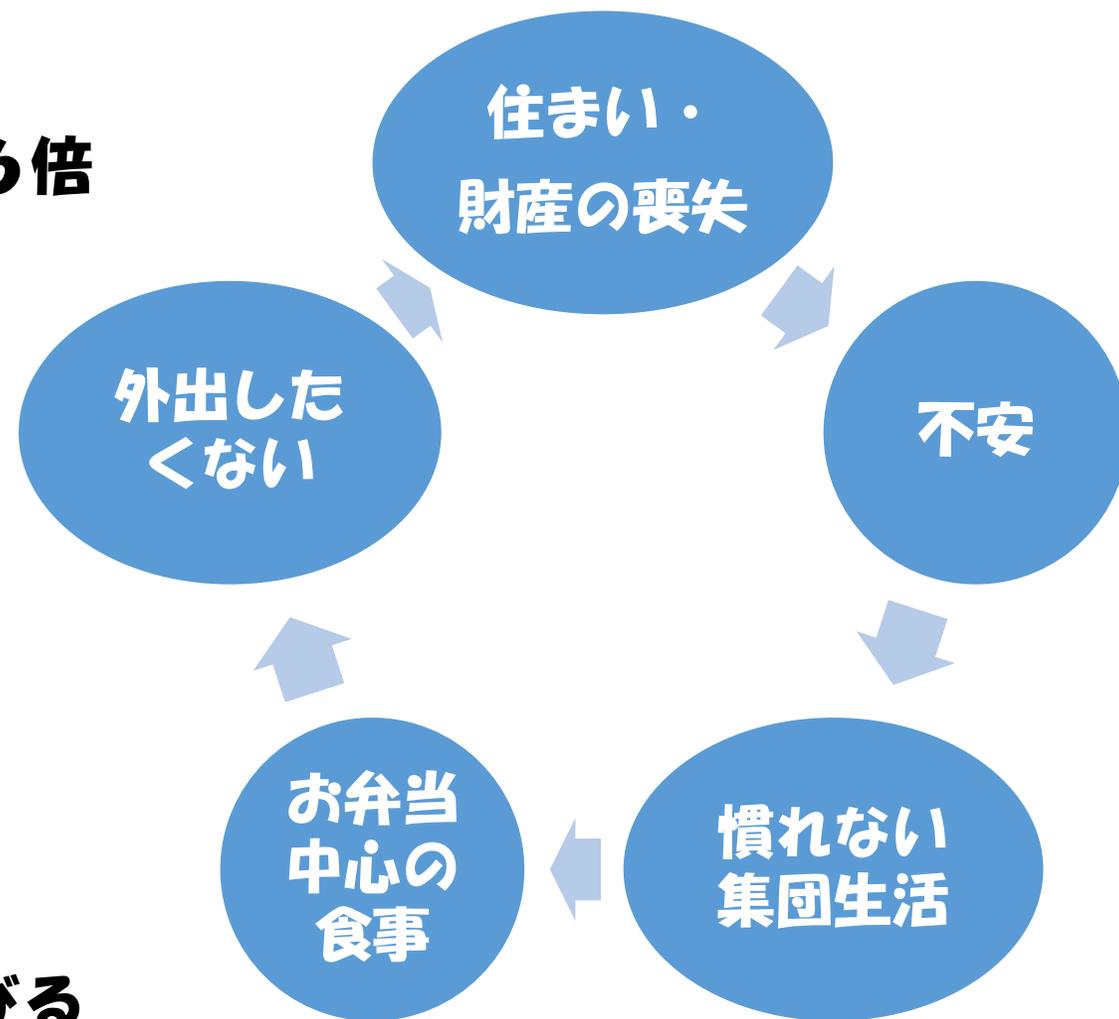
3.11震災後 避難者は糖尿病が1.6倍

【原因】は・・・

人間関係の変化
運動不足
おむすび, パン中心の支援
野菜不足

【大切】なのは

笑い
つながり 不安の予防にも
健康な睡眠, 朝, 太陽の光を浴びる



まとめ

- 総合事業だけで高齢者が自分らしく地域で暮らし続けることを支えることは出来ません。地域や家庭の中で何らかの役割を担いながら生活そのものを活発にすることが大切であり、たとえ要介護状態になっても**誰かのために役立ちたい**という高齢者の思いを実現できる「介護予防」に取り組みます。
- 地域には、元気な方、虚弱な方、認知症の方、介護を必要とする方など様々な高齢者が住んでおられますが、**高齢者を年齢や心身の状況等によって分け隔てることなく**、また、高齢者だけを考えるのではなく、全体の繋がいを再構築するような地域づくりをめざします。
- 災害がおこってしまった後に、住まい・生活支援・介護予防の大切さを再認識しました。**再び…地域包括ケアシステムを構築します。より強固なものに。**

住み慣れた地域で 安心していきいきと暮らせるまち 総社